



平成23年 5月 6日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号機 1次冷却材中の放射能濃度の上昇について (原子炉手動停止について)

敦賀発電所2号機(加圧水型軽水炉:定格電気出力116万キロワット)は、定格熱出力一定運転中の平成23年5月2日、定例の原子炉容器内にある燃料集合体の周りを循環している1次冷却材中のヨウ素濃度および希ガス濃度の測定^{※1}の結果、希ガス(Xe-133)とヨウ素(I-133)が前回の測定値を上回る値であることが確認されました。このため、燃料集合体から漏えいが発生した疑いがあると判断し、1次冷却材中の放射能濃度の監視を強化^{※2}しました。

今後、漏えい燃料の特定調査を行うため、計画的に原子炉を停止することを検討します。

(5月2日発表済)

敦賀発電所2号機は、5月7日9時頃から出力降下を開始し、同日17時頃に発電を停止した後、20時頃に原子炉を停止します。

その後、1次冷却材中の放射能を低減させた上で、漏えい燃料の特定調査を実施する予定です。

本事象による環境への放射能の影響はありません。

※1: 燃料ペレットを収納している燃料被覆管に、ごく僅かな漏えいがあると、燃料被覆管内のヨウ素や希ガスが1次冷却材中に放出され、その濃度が上昇する。このため、1次冷却材中の放射能濃度を測定し、その変化から漏えいの有無を判断している。

※2: ヨウ素濃度(1回/週 → 1回/日)、希ガス濃度(1回/週 → 1回/日)

添付資料: 敦賀発電所2号機 1次冷却材中のヨウ素濃度、希ガス濃度および原子炉熱出力の推移

以上

敦賀発電所2号機 1次冷却材中のヨウ素濃度、希ガス濃度および原子炉熱出力の推移
 (第18サイクル 平成22年7月12日～平成23年5月6日)

